

令和 7 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690700032
法人名	社会福祉法人宇奈月福祉会
事業所名	グループホームくぬぎの里
所在地	富山県黒部市宇奈月町下立50番地 - 1
自己評価作成日	令和7年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所からは山並みや田畑など自然豊かな風景が眺められ、農作業の音や登下校する小学生の賑やかな声が聞こえる等なじみの暮らしを思い起こすことができるような環境のもとで、ご利用者は共に生活されている方々や職員と関わりながら、個々のペースでゆったりと生活されています。さまざまな家事作業を行う機会や、季節に沿った行事に参加する機会を設けながら、一人ひとりの持っている力を発揮し、役割や生きがい、楽しみを持っていきいきと暮らせるよう支援しております。職員は、地域密着型サービス事業所としてご利用者やご家族だけでなく地域に対してどんなことができるのかを考え、法人理念である“地域と共にあなたと共に笑顔の花を咲かせます それが私たちの仕事です”の実現に向けて、行事の企画・実施や地域のイベントへの外出支援に取り組んでいます。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周围には四季折々の植栽があり、玄関先にある桜の苗木は春になると桜の花が満開になり、散った花びらが地面を敷きつめ、利用者や地域の人々の目を楽しませてくれる。法人理念に基づき「感謝」「誠実」「協調」「熱意」「創造」の5つの行動基準があり、それぞれが具体的に示されている。事業所では行動基準を具体的に示した項目を職員で話し合い、その中から1つ選び、毎月の目標として掲げ実践につなげている。管理者は「理念を”浸透させる”から”定着させる”」ことを念頭に、職員一同が同じ思いを持って日々のケアに取り組めるよう努めている。事業者内研修では、外部研修に参加した職員が講師となり、研修で学んだことを人に伝える機会として人材育成を行っている。また、「にやりグッド活動」を実施し、利用者や職員の笑顔があふれ、心が温まるエピソードを募集し、職員同士の関係性が良好となるよう取り組んでいる。医療機関との連携や、24時間昼夜問わず相談対応ができる関係があり、家族の安心につながっている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の全事業所共通の理念があり、事業所内の目に付く場所に掲げ全職員で共有している。理念を達成するための約束や行動基準が具体化されており、昨年度からそれらと事業目標の内容とを関連付けながら、理念の達成に向けて日々取り組んでいる。	法人としての行動基準が理念に基づき決められており、行動基準をより具体的に示している項目の中から事業所職員で話し合い、毎月の目標として選び、毎日業務に入る前に読み上げている。理念、行動基準、事業目標は食堂に掲示しており、職員は日々の中で意識を持ち実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナが5類に移行してからは、地域行事や法人保育園に出向き交流することで、地域とのつながりを少しずつ取り戻している。地域に出向くことについて、住民の理解度も高いと感じている。	同一法人の保育園から招待を受け、運動会の予行練習や発表会を見に出かけ交流を図っている。また、地域の昔ながらの行事である愛本姫社まつりや地区の公民館まつりに出かけ、抹茶をいただいたり、地域の知人と会って会話を楽しむ機会となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋に開催した小多機での合同地域交流会へは感染者発生により参加出来なかった。運営推進委員会の中で認知症の利用者への具体的な対応について説明し理解を得ている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の写真や年4回発行している“くぬぎの里だより”を見ていただきながら、事業所の年間計画、目標、日々の活動報告や事故発生および再発防止策、ヒヤリハット事例等を報告し、会議ではそれらに関する意見交換を行い、その意見をサービス向上に活かしている。委員会の中で、認知症の対応方法に関する資料の配布や説明を行った。	運営推進委員会では委員のメンバーと意見交換を行っている。事故報告で利用者がトイレのカギをかけ、中で頭をぶつけた事例の話から、トイレの施錠のあり方についての意見が交わされている。また、管理者は認知症とせん妄についての資料を作成し説明を行い、メンバーの方に興味を持って熱心に聞いていただいている。参加できない家族へは議事録を配布している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会には地域包括支援センターの職員も委員として参加し、事業所の現状を定期的に報告して時々意見をいただいている。市へは年4回“くぬぎの里だより”や委員会の議事録を送付し、生活の様子や活動内容を知ってもらっている。	市へ運営推進委員会の議事録を送付し情報提供を行い協力関係を築くよう努めている。黒部市社会福祉協議会の黒部市東部地域包括支援センターの職員が運営推進委員会に参加し、相談や助言をいただける関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度、身体拘束適正化のための検討会を行い、日々のケアが身体拘束に繋がらないかを確認している。また、研修では身体拘束における弊害を学んでいる。防犯上の観点から終日玄関は施錠しているが、外へ出たいとの希望があった際は開錠し、対応している。	「身体拘束廃止・防止の手引き」を用いて研修を行っている。また、法人全体で動画研修を実施している。シフトの関係で集合での研修は難しいが、動画研修は職員の都合の良い時間に見ることができ有効的な学びとなっている。職員は感想をタブレット・パソコンに入力している。外部研修に参加した職員が伝達研修を行い、学んだことを伝えるところまでのプロセスを研修とし、人材育成につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員の復命書を回覧したり、法人内のオンライン研修を受ける機会を設けたりした。虐待が見過ごされることがないように、日々利用者の身体確認（皮下出血がないか等）や職員が発する言葉遣いに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての動画を視聴する機会を設けた。個々の必要性を関係者と話し合う事例はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、法改定時には、事業者側からの一方的な説明で終わらせることのないよう、重要事項説明書や契約書に基づいた説明を行い、ご家族に不安な点や疑問に思ふ点がないかその都度確認し、それらについて迅速に答えることで理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する家族の意見や要望について意見箱を設置しているが、その活用がないことが課題である。苦情や要望があった場合は書式に記入し、全職員に回覧して周知している。苦情、相談に関する研修に参加したり動画視聴する機会を設けた。	家族から面会制限に関する意見・要望があり、居室内での面会ができるよう改善につなげた事例がある。意見箱を設置しているが活用がないことから、日々の中で家族目線の意見を聞き取るよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はこまめに事業所内の利用者状況や各職員の体調、思い等について代表者に報告し、共有している。また管理者は毎月法人全事業所の責任者会議に出席し、状況報告や提案を行っている。職員へは毎月の会議や個別面談時に意見や提案する機会を設け、思いの把握に努めている。直接上司に言いづらい場合は、施設長との個別面談の機会も設けている。	毎月の会議で聞き取った、職員からの意見や要望は法人全事業所の責任者会議で報告している。職員の個別面談は職場内連絡ツールを活用し施設長との面談も可能である。管理者は日々の中で職員の体調やメンタル面を気遣い、相談や助言を行っている。人事考課においては理念に基づいて行動指標が実行できているか確認し、職員の成長や意欲の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者と定期的に職員の状況について意見交換しており、個々の勤務状況や心身の状況について気に掛けている。また、出来るだけ超過勤務が発生しないよう業務改善を図ったり、個別への助言、指導等行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と管理者で、職員個々の今後の成長につながると思われる研修参加を促している。また全職員や役職者に対して、施設内研修を年7～8回行っており、日々の仕事に活かし資質向上につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が同業者と交流したり、相互訪問する機会はなかったが、近隣の事業所と電話で情報交換、共有している。また、研修参加によってネットワーク作りが出来た職員もあり、サービスの質向上にも役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には必ず事前調査に伺い、本人、家族、ケアマネに、生活歴や趣味、長年の習慣等の焦点情報や現在の思い、要望を収集し、必要な情報をできるだけ多く調査書に記入し、情報共有している。事前に1つでも多くの情報を把握しておくことで、利用開始時に本人、ご家族が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時や契約時には、家族の不安や要望、利用直前の複雑な心境を話すことができる場と時間を設けている。また契約時や荷物の搬入時には事業所内を見学していただき、新しい環境で生活することへの不安が少しでも和らぐよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申請時や遅くとも事前調査の段階で、本人および家族の思いや要望と、ケアマネ等関係者からの情報を擦り合わせ、現時点でどんな支援が必要で最適なサービスは何かを検討し、地域性も含めてより適切と思われるサービスがあれば、そちらを勧めている。併設の小多機や特養への利用申請を勧めたケースもあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対し、「～してあげた」「お手伝いして」という発言をしないよう努めている。食事づくりや盛り付け、配膳、下膳、シーツ交換や洗濯など家事全般において職員だけで行わず、利用者と一緒に活動することを基本としている。趣味活動や各種行事の参加も利用者と職員が共に楽しめる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の暮らしを支えているのは職員だけではなく、家族と共にという思いを共有し、長年築いてきた本人と家族の絆を阻むことのないよう、状況報告や相談を行い、職員だけで結論を出さないよう努めている。また、ご家族の力を借りたい場合は、遠慮せずお願いしている。（急ぎの物品購入や受診など）		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍を経て、現在は居室内での面会を推奨しており、短時間であっても対面することの意義を大切にしている。また家族の希望に添って、職員送迎で遠方の施設にいる娘さんとの面会を果たしたケースもある。出来る範囲で馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。	家族との関係性を大切にするため、居室内での面会を可能としている。面会時にタブレットやパソコンを活用して写真や動画を見ていただいている。また、遠方の娘との対面に職員が送迎をするなど、本人と家族が必要とする支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングや食堂の共有スペースで体操やティータイム、趣味活動、調理、軽作業を展開し、利用者同士の関わりや助け合いが自然に生まれるよう工夫している。また、室内行事の際にはテーブルや座席の配置を普段と変えることで気分転換を図り、利用者同士で良好な関わりが出来るような場面を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わっても、本人の次の生活の場が決まった際には、関係者の要望に応じて電話や書面で必要な情報を提供している。退所後、家族から次の施設への移行に関する相談を受けたり、排泄用品の寄付をいただいた例もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間の様子がメモできる生活表を活用し、生活全般を把握している。日々の暮らしで、一人ひとりの発した言葉や行動などから思いや願いを把握し、個別日誌にありのままの状況を記入し、職員間で共有している。それが困難である利用者についても表情等から読み取り、本人の立場に立てて検討している。会議前には職員全員に資料を配布し、ケース検討会議で意見交換し情報共有している。	入所時にセンター方式シートに暮らしぶりや馴染みの場所、好みなどを記入し支援に活かしている。生活の中での要点を生活表に記入し、それをもとに細かく整理して利用者の状況や行動等を個別日誌に入力している。利用者の思いは「●」、家族や医療関係などは「△」、職員の対応は「○」をつけ記載方法を工夫し見やすくなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査書や入居直後の個別日誌をもとに、これまでの暮らしぶりや馴染みの人や場所、好みなどを把握し、センター方式シートに落とし込んで共有している。本人だけでなく、家族、これまでのサービス利用で関わってきた方々にも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活表をこまめにかつ自由に記入して利用者の生活を把握し、共有出来るようにしている。個別日誌は時系列に沿って一人ひとりの過ごし方や心身の状況、活動内容等の様子を詳細に入力し、現状把握している。特記事項については、別の手段を用いて迅速に把握できるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時や変化がみられた際などに家族に意向や意見を確認し、併せて日々のケアや個別日誌を通じて、毎月の会議で出された課題やケアの内容等話し合ったことをもとに計画を作成している。またケース会議用シートの「先月の振り返り」欄を活用して課題が放置されることのないよう取り組んでいる。	職員は2～3人の利用者を担当し、「利用者シート」に先月の振り返りや計画の実行状況などを記載している。先月の振り返りは個別日誌を取りまとめ1か月の状況がわかりやすくなっている。毎月の会議では利用者シートを用いて課題やケアの内容を確認し介護計画を作成している。本人、家族、職員からの意向や意見を反映した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌には職員がどのような場面に接し、どう捉えどのように関わり、どう変化したかまでを入力することを日々徹底している。医務的な事項や普段とは違った言動、持っている力が発揮できた場面や家族等と関わった時の状況を詳細に入力して情報共有しており、日々のケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、特に家族状況や緊急の度合いによって、受診等事業所が出来る範囲内で対応している。利用者と家族の関係が良好でないケースもあり、家族への負担が極力少なくなるよう配慮し柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、一人ひとりの希望に添って温泉街へ外出したり、公民館まつりに作品を出展し、それを見に出向いたりし、地域住民と交流する等の楽しみごとを支援している。ヘアカットは地域の美容院に来てもらい、個々の希望に応え対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に説明し、主に家族の要望にて入居後の主治医をどうするか決めている。協力医へは休診日や時間帯を問わず電話で状況報告や相談を行い、速やかに指示や助言をもらっており、日頃から良い関係を築いている。受診の場合は原則家族の対応としており、日頃の状況や相談事項を別紙にまとめて持参していただいている。職員が同行するケースもある。	利用者・家族の希望により、全員が協力医療機関への受診となっている。利用者の健康状態を記載した用紙をかかりつけ医に渡し情報提供している。時間や休日問わずいつでも電話での相談ができ医療との連携ができている。また、薬局との協力体制がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員の配置はないため、曜日や昼夜を問わず直接協力医に電話にて報告・相談し、受診につなげている。法人内特養の看護職員にも、外傷等で応急処置が必要な場合に協力が得られる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が予測される状況であれば、職員も共に病院へ向かい、速やかに医療関係者へ本人の暮らしの様子やケアに関する情報提供を行っている。入院中は地域連携室からの情報をもとに、早期に退院出来るよう努めている。病院関係者との日頃からの関係づくりは行っていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期のあり方について家族に説明し、利用者の心身の状態に応じて段階を追って家族やかかりつけ医と十分な話し合いを行い、状態によっては事業所ができる内容に限界があることも説明しながら、重度化した場合の方向性について思いを共有することに努めている。また、重要事項説明書とは別に具体的な内容について書面で提示している。“地域との関係者と共にチームで支援している”という所までには達していない。	契約時に「重度化した場合のあり方について」の書面をもって説明し、本人、家族に同意を得ている。利用者の心身の状態に応じて早い段階から家族やかかりつけ医との話し合いを行い、事業所でできること、できないことを丁寧に説明している。事業所での生活が困難となった場合には、対応できる施設等につなげる支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に冷静且つ的確に対応できるよう、研修を通して学んでいる。急変時のマニュアルは即座に活用できるよう職員デスクに貼り出している。初期対応の訓練は動画視聴のみが行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人主体の消防訓練(夜間想定)と水害訓練は、担当する職員に偏りがないよう配慮している。まだ職員のための訓練としており、利用者の参加がないためイメージしにくい現状もある。地域住民代表の防災協力会の会長に参加いただき、避難経路や車椅子の取扱い方を伝えることが出来た。	ハザードマップ上、水害の恐れがあり、同一法人の事業所に避難することになっている。避難場所は日常の中で利用者と一緒に外出した際、確認をしている。災害時に地域の防災協力会の会長の協力を得ることになっており、町内会でも、万が一の場合に備えて連絡網が作られ、協力を得られる体制がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者へは、原則姓で呼びかけている。作業を促す時などは指示・命令口調にならないよう留意し、「いっしょにしませんか」と声掛けするよう努めている。共同トイレの使用や入浴を促す際には、周囲の利用者から注目されたり指摘されたりしないよう声掛けの仕方に配慮している。	5つの行動基準の中に、「相手を一人の人間として尊重し、大切に思う心を、形を(言葉・態度・行動)を通して伝えます」「敬意と真心を持って利用者に向き合います」が記載しており、職員は理念・行動基準を通して実践・実行につなげている。「にやりグッド活動」は約10年継続されており、“感謝”の心が頑張れる原動力となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で、どんな些細なことでも自己選択、自己決定する場面を意図的に作り、一人ひとりの思いや希望が表現出来るよう働きかけている。特に現在は意思表示が十分出来ない2～3名の利用者に対し、本人の表情や言動から思いを汲み取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体の考えのもと、職員側(業務)の都合だけを優先することのないよう、一人ひとりのペースに寄り添い、本人の思いや希望を優先するにはどうしたら良いかを日々のミーティングで話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや習慣として行ってきたことを大切に、身だしなみやおしゃれが楽しめるよう家族に必要な物を持ってきていただき、支援している。 (洋服、化粧品など)ヘアカットは地域的美容院に来てもらい対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・食材は業者委託している。利用者と職員でみそ汁作り、盛り付けや配膳、片付けを行っており、利用者の持っている力を発揮できるような場面を作っている。 また、食を楽しむ一環として、青空会食や変わりご飯の日を設けている。誕生会の手作りおやつで祝ったり、季節ごとにあんず干しやおはぎ、団子、干し柿づくり等も一緒に行っている。	食堂では、昼食の準備を手伝う利用者の姿があり、炊飯器のご飯をお櫃に移す、箸を並べるなどできることを行い、その利用者の表情はいきいきしている。食事中はラジオを聞いて、日当たりの良い窓辺で中庭を見ながら食べている光景がある。 また、おやつ作りはお釈迦の団子(涅槃団子)を作りお供えして食べることが習慣になっている。管理栄養士が定期的に助言を行うなど食生活が豊かになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配業者から献立、分量、栄養価、カロリー等の一覧表を提供してもらい、バランスの良い食事を提供している。一人ひとりの食習慣や好みを把握し、体調や活動量、時間、形態、食器の工夫等、柔軟に対応している。また法人の管理栄養士と連携し、栄養管理体制加算を通して、日常的な栄養ケアに係る介護職員への技術的助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりに応じた口腔ケアを支援しているが、長年の習慣(1日2回しか歯磨きしない、起床後に歯磨きするため朝食後に磨かない)により拒否される方もおり、そこは受容している。義歯の調整等は家族に依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄が出来るよう取り組んでいる。現在おむつの使用者はいない。24時間生活表から個々の排泄パターンを把握し、そこから得られた情報をもとに生活表に印を付けて全員が一目で分かるようにしておき、適切なタイミングで言葉掛けとプライバシーの配慮に努めながら、個々に合った支援を行っている。また、トイレ内の環境整備も行っている。	24時間生活表を活用しながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。一人ひとりに合った言葉かけやプライバシーへの配慮に努め、自分でできる動作は見守り自立に向けた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に乳製品を取り入れている。各種飲み物を常時揃えておき、いつでも好みの飲み物を提供できるようにしたり、食事には必ず汁物を提供したりすることで、水分摂取が確実に出来るよう努めている。また、運動としては1日2回の体操が定着している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴としており、10:00～11:30、14:30～16:30を入浴可能時間としている。入浴支援はマンツーマン対応としており、入浴していない日数が長い方から優先的に入っていただいている。その際は好きな時間や心身の状態が良好なタイミングを見計らい支援している。必要な方には入浴補助具を使い安全に努めている。	週2回の入浴を基本とし、希望があればいつでも入れる工夫をしている。また、シャワー浴や足浴も可能となっている。湯船への入り方や回数にこだわりのある利用者には利用者に合わせた対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの活動状況や生活習慣に応じて、体操や作業等で日中の活動が増えるよう支援し、午睡の時間も確保できるよう工夫している。また、夕刻からは照明の明るさや職員の声のトーンを下げ、穏やかな一日の終わりにつなげる工夫をしている。就寝中の照明についても個々の習慣やこだわりを尊重している。主治医に相談し、眠剤が処方されている方が2名いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法、用量は薬情を回覧してファイル整理しておき、職員側で薬の保管やセットを行っている。個々の状態に合わせて薬の形状や服薬の支援方法を工夫している。症状の変化について観察と記録を行い、主治医に情報提供して処方内容の調整、変更をこまめに行っている。毎週金曜日を主治医と相談、調整日としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのこれまでの生活や楽しんできたこと、好きなことについて本人や家族から情報をもらったり、暮らしの中で発した言動を個別日誌に記載したりし、それをもとに家事作業や裁縫、外出等、一人ひとりが役割や楽しみを持って過ごせるような場面を作っている。嗜好品については特に飲み物を自由に選んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナが5類に移行されたことで、地域行事への参加や季節に応じた外出を少しずつではあるが行っている。敷地内の散歩や日光浴は天候を見ながら行っている。地域の花見、祭事、七夕見学、紅葉狩り等の外出支援に取り組んでいる。個別の外出支援も出来る範囲で行った。	天気の良い日には、隣接した法人敷地内の遊歩道を散歩したり、玄関先で日光浴をしながらプランタの花を愛でることができる。年間計画に沿ってドライブに出かけ、季節の花見などを楽しむ機会がある。近くの公民館へコーヒーを飲みに行くことも楽しみの一つとなっている。	地域行事への参加やドライブは少しずつ行っているが、感染症を懸念して買い物や外食などは控えている。その人らしく暮らし続けるための支援として、これまで通り外に出かける機会や法人内の交流など、工夫した外出支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者が手元に小銭程度持ってはいるが、使う機会が殆どない状況である。財布を持っていないと不安になる方もおり、どんな時でも暮らしにはお金が大切であるということを、職員間でも理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが身内に電話したいと希望される方はいないが、家族から電話があった際は、そのやり取りを支援している。また、遠方の家族には事業所だよりや写真と一緒に日々の様子を伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭からは窓越しに明るい日が射し込み、季節の樹々や花が眺められる造りになっている。調理や掃除の音、テレビやラジオの声、会話等の自然な音を避けることなく生活音として取り込んでいる。また食堂に季節の花を飾ったり、プランターに植えた花や野菜を育てたりし、季節感を採り入れている。24時間室温や湿度が快適に保たれ、居心地よい暮らしができるよう配慮している。職員のあまり目が行き届かない廊下の一角にある談話コーナーでは、観音様にお参りし、鉢合わせた者同士で立ち話をする様子もみられている。	共有スペースからは明るい光が差し込み、中庭の植栽の木々やプランタの花や野菜を眺めることができる。食堂とリビングは障子戸で間仕切りされ、状況に合わせて広い空間として活用できる。食堂の窓際に紅白の梅の盆栽が置かれ利用者の目を楽しませている。リビングはソファでくつろげるスペースとなっており、裁縫やリース飾りを作ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや脱衣室前にはソファを置き、廊下の所々や和室にはベンチを置いており、一人で外の風景を眺めながら軽作業したり、気の合う者同士が会話したりできるよう、居心地の良い環境作りに努めている。午睡しない方には一人でも居心地よくリビングや食堂で過ごせるよう、飲み物を提供したり好きな動画を入れたりして居場所の環境を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と話し合っ、できる範囲で使い慣れた家具や寝具、好みの洋服等を自由に持ち込んでいただき、居心地よく暮らせるよう工夫している。また、職員が効率化を優先して一方的にレイアウト変更や出しっぱなしの物を片付けてしまわないよう徹底している。	居室にはベッド、トイレ、洗面所、エアコンが完備されている。また、窓にはブラインドが設置され、ブラインドからの光は利用者の好みに合わせて調節している。自宅で使用していた物やこだわりの物、家族の写真などを置き、個性を尊重した居心地の良い環境となっている。利用者の動線から転倒防止に配慮して衣装ケースの置く場所を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所が職員の指示なしでも分かるよう、のれんを掛けたり、利用者と職員と一緒に食事づくりができる作業台を活用したり等、一人ひとりのできることやわかることが引き出せるような環境を作っておき、自発的に意欲を持って動き出せるよう工夫支援している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームくぬぎの里

作成日： 令和 7年 4月 4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	年間事業計画にそった地域行事への参加やドライブは行っているが、依然として感染症を懸念し近隣スーパーへの買い物や外食などは行っていない現状である。そのため日常的な地域とのつながりが希薄である。	日常的な外出支援として、利用者個々のその日の希望にそって戸外に出かけられる機会を作り、その人らしく暮らし続けるための支援に取り組む。	①法人内感染症対策委員会へ外出における規制の見直しと緩和を働きかける。②法人内事業所（小多機、デイ、特養）との交流を再開する。③利用者個々の地域資源を把握し、家族や地域住民の理解と協力を得て、希望にそった外出支援をする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	○ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話合った
		○ ②利用者へサービス評価について説明した
		○ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		○ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		○ ⑤その他()
2	自己評価の実施	○ ①自己評価を職員全員が実施した
		○ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話合った
		○ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話合った
		○ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		○ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	○ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		○ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		○ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		○ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	○ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話合った
		○ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話合った ※予定している
		○ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話合った ※予定している
		○ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話合った ※予定している
		○ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	○ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		○ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		○ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		○ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		○ ⑤その他()